

かたち  
知覚させる



中  
西  
洋  
人  
個  
展

2023

7.13 Thu > 9.18 Mon

10:00 - 17:00

Closed: Tuesday - Wednesday

Admission free

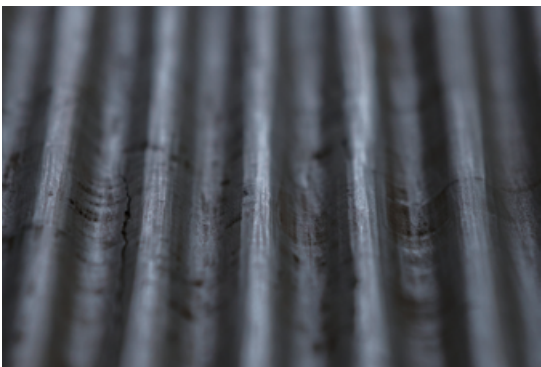
休館日: 火・水曜日 / 入場無料

※開館時間は千總本店の営業時間に準じます。

千總ギャラリー [ギャラリー2]

CHISO GALLERY gallery2

この度、千總ギャラリーは中西洋人の個展「知覚させるかたち」を開催いたします。作家・原田マハが本展のために寄せた「結界：永遠の魂」とともに作品をお楽しみください。



## 中西洋人 Hiroto Nakanishi

愛知県名古屋生まれ、岐阜県で木工と家具制作を学んだ後、木彫作家として2008年に独立。2010年より個展を中心に活動を開始。作品制作で使用する木材は通常販売している製材されたものではなく虫食いや朽ちた材を使うため、都市生活での限界を感じ、2011年秋、滋賀県の電話交換所だった場所に自宅と工房を設立。災害による倒木や間伐材などその時に出会った原木を使用して作品を制作している。作品はコンセプトやイメージに合わせて素材を見つけるのではなく、その時自分にしか出会えない素材との対話からはじまると考えている。

## 結界：永遠の魂

外国人の友人に日本の文化や日本人特有の感性について英語で説明するとき、とっさに翻訳できないことがある。感覚的にわかっていても、いざそれがなんなのか説明しようとすると、どうしてもうまく言い換えられない。その中のひとつに「結界」という言葉がある。

神社仏閣を訪ねると、何もない空間に縄が張られている場所に行き合うことがある。縄の内側には何もない。が、日本人のほとんどがそこに「何かある」と感じるはずだ。「結界」とは日本人が持つ「見えないものを見る」力を前提にして成立している、非常に特殊な「聖域」の考え方である。

中西洋人の作り出す木彫の数々には、「結界」に似た気配が漂っている。それが彼の作品の優れた特徴の一つだと、初めて見た時からそう感じていた。

中西の作品には「木彫」と一言では片付けられない深遠さがある。彼は朽ちかけた木や、特に「うる」や「ふし」が目立つ木を選んで創造の材とする。木材は中西の手によって、割れた壺、ロープ、メガネ、本、トタン板など、なんということのないものへと変容してゆく。それらは言ってみれば実に「つまらないもの」であり、その辺に打ち捨てられていてもおかしくない、無視されて当然のものたちである。そこに向けられる中西の目は、まさしく結界をみつめるまなざしなのではないか。

ぬかるみの中に横たわるロープを誰が美しいと思うのだろう。あるいはひび割れてもはや花を生けることが叶わない壺を誰が使おうとするだろう。有用だったものが無用になる、そのあわいに中西は結界を張る。無視され、打ち捨てられた何かをすくい上げ、そこに創作という名の命を吹き込む。そうすることによって、無用だったものたちは気高い聖域の内側に祀られるのである。

中西が創り出した木彫のトタン板を目にした時、神々しさに打たれる思いがした。モチーフとなったトタン板は、おそらくそのへんの藪の中に放置されていたトタン板で、いつ、誰に、何の目的で使われていたものだったのか定かではない、そういうものに違いない。しかし中西を介して再生されたトタン板には、朽ちることのない命が吹き込まれたのである。

「永遠の魂」の在処を、中西は知っているのかもしれない。見捨てられたものの中にこそ、それはあるのだと。

原田マハ(作家)

1962年東京都生まれ。関西学院大学文学部日本文学科、早稲田大学第二文学部美術史科卒業。伊藤忠商事株式会社、森ビル森美術館設立準備室、ニューヨーク近代美術館勤務を経て、2005年『カフーを待ちわびて』で第1回日本ラプストリー大賞を受賞し作家デビュー。12年『楽園のカンヴァス』で第25回山本周五郎賞、17年『リーチ先生』で第36回新田次郎文学賞を受賞。

千總本店 2F 2nd floor of the CHISO Flagship store

## 千總ギャラリー CHISO GALLERY

文化の発信地である京都で460余年続いてきた千總。工芸とアート、伝統と創造、過去・現在・未来などが交差するこの場で、新たな美との出会いをご提供します。

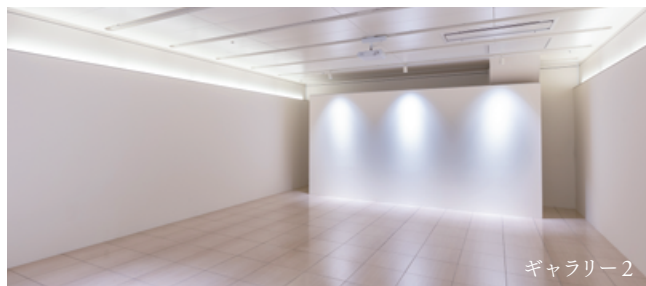
### ギャラリー2 本展会場

ブランドと感性や理念が共鳴する現代の作家の作品を、千總のキュレーションによって展示します。美を未来に向けて生み出すことなど、ブランドの創造性を伝えます。

### ギャラリー1

小袖、屏風などの所蔵品を展覧会のテーマごとにご覧いただけます。

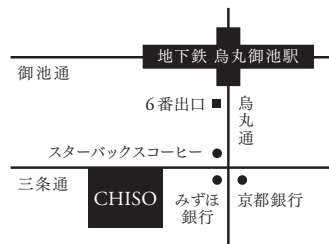
千總ギャラリーの最新情報は右記のQRコードより  
千總公式サイトにてご覧ください



ギャラリー2

京都市営地下鉄「烏丸御池」駅  
6番出口より徒歩約3分  
阪急電鉄「烏丸」駅 22番出口より  
徒歩7分

●車椅子でご来館の方へ  
エレベーターのご案内が可能です。  
ご利用の方は、店内係員までお申し  
付けくださいませ。



TEL 075-253-1555 FAX 075-253-1700  
604-8166 京都市中京区三条通烏丸西入御倉町80  
80 Mikura-cho Sanjo Karasuma Nishiiru Nakagyo-ku Kyoto-shi 604-8166, Japan